

研究構想図

【学校の教育目標】

自立 自ら動く

【生徒の実態】

- 学習課題に対して、仲間と共に誠実に取り組み、追究しようとする生徒が多い。
- 課題解決に向けて、自ら動いて解決しようとする姿が見られるようになった。
- ▲積極性に欠けたり、すぐに周りに助けを求めてしまったりする傾向にあるため、自分で考えたり、考えに自信をもったりすることに弱さがある。
- ▲自分の考えを主張したり、仲間の意見から思考を深めたりする姿勢が弱い。

【めざす生徒の姿】

- ・課題意識をもち、自らの意思で学習に向かう姿。
- ・既習内容を活用し、自ら考え・判断し、課題解決に向かう姿。
- ・基礎的・基本的な学習内容を身に付けた姿。
- ・仲間と関わり合いながら、よりよい方法を見つけ、課題解決に向かう姿。

【研究主題】

主体的に学ぶ生徒の育成 ～ つなぐ指導を取り入れた授業改善を通して ～

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心をもち、自らの意思で学習に向かい、課題解決に向けて既習内容や生活経験、仲間の意見をつなげながら粘り強く考察し、学びを深めていく姿

《研究仮説》

生徒の実態やこれまでの学習内容を踏まえ、学習過程を明確にした指導計画を工夫するとともに、生徒の課題意識を高める工夫や、教科の特性を生かし、つなぐ指導方法の工夫、単元や一単位時間の終末の工夫を重ねていき、生徒一人一人につなぐ指導を充実させることで、主体的に学ぶ生徒を育成することができる。

- (1) 生徒の実態やこれまでの学習内容を踏まえ、学習過程を明確にした指導計画の工夫
(単元・一単位時間の役割、つながりの明確化)
- (2) 主体的に学ぶための生徒の課題意識を高める工夫
(単元・一単位時間の導入の工夫、ICTの活用、見通しを持たせる工夫)
- (3) 教科の特性を生かした、つなぐ指導方法の工夫
(学び合いの工夫、学習形態の工夫、表現指導、思考の可視化の工夫)
- (4) 自己の変容や学びを実感させるための終末の工夫
(単元・一単位時間の終末での表現活動、振り返り・評価の工夫)